

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 28 年 11 月 29 日 (火) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 : 28 名 (委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 13 名
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ ご指摘事項まとめ ⑤ 平成 28 年度第二回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑥ RJP 学生評価票 ⑦ アドミッションポリシー
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ白井副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。 2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵悟より挨拶が行われ、当学園の委員会出席率が極めて良好であることについて感謝の意が述べられた。またアドミッションポリシーについてのご意見のお願いなどが述べられた後、審議に入った。 3. 委員紹介 白井副校長より出席者名簿に基づき委員の紹介が行われた。 4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長については、霜野隆 委員が、副委員長として渡辺委員、書記として小野寺委員が引き続き選出された。尚今回は小野寺委員が欠席のため事務局にて書記を代行した。 5. 開催要件の確認 議長より本会議の出席状況について確認指示があり、事務局より委員 30 名中 28 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。 6. 議事 (1) 第一号議案：平成 28 年度第一回会議議事録の確認 (2) 第二号議案：前回の指摘事項とその改善点（本年度改訂の自己評価報告書への加筆事項確認） 議長は事務局に対し、前回議事録の確認ならびに指摘事項の改善等についての説明を指示。事務局側では資料③および④に基づき議事録の説明と、指摘事項の改善状況と自己評価報告書加筆事項について説明を行った。その後議長はこれらに対する疑義について出席者に図ったところ、基準 4 と基準 9 の自己評価点が他に比べて低いことに関する質問があった。 高瀬校長より、「評価点は基本的には 3 点以上で問題がない、4 点以上で大変素晴らしい…という感じの評価である」とご理解いただきたく、我々は細かな数値をあまり厳密に捉えてはいない。たとえば RJP などの学修評価は現在改善途上であり、その分自己評価が厳しくなる。また基準 9 の個人情報保護等の法令順守に関しては文科省など省庁での基準が明確ではなく、そのためわれわれとしての評価が行いにくいこともあって厳しい数値となっている。」との説明があった。他に質問等はなく、その後全員一致で議事録ならびに自己評価報告書への加筆事項に齟齬がないことが確認された。 (3) 第三号議案：28 年度取り組み進捗状況報告 取組全体の説明項目について白井副校長から紹介ののち、高瀬校長より、学園全体の財務状況に問題はないこと、設備投資および教員募集に関する取組みになどについて口頭で報告があった。次いで以下の 7 項目に関して報告が行われた。 ①就職内定状況 (高瀬) ・現在 93%であり 12 月末まで 100%達成の見込みである。来年度は予断を許さない。中国および非漢字圏の留学生が増加しており、履修や就職指導の対応、就職企業開拓などをより強化することが必要となる。 ②学生募集状況 (高瀬) ・出願者前年比 113%と比較的堅調に推移している。しかしながら 2018 年 (H30 年) 以降は 18 歳人口が増えず、H43 年で 100 万人を割る。今後大学、専門学校の一定量は淘汰される。これに対処するためには教育理念を世に広め、社会とわれわれ接続部分、すなわちアドミッションポリシーを明確化することが必要。 ・日本人の減少を留学生により補う→留学生 30 万人に増加 (政府方針) への対応の必要性。 ・専門学校希望者は学科に入ってくる。学科を前面に出して広報する方針に変更。

③三つのポリシー策定に関する報告（高瀬、白井）

- ・卒業認定、学位授与の方針（ディプロマポリシー）
- ・教育課程編成、実施の方針（カリキュラムポリシー）
- ・入学受け入れの方針（アドミッションポリシー）

高瀬校長より、国の受験システムの変更が計画されており、現在の中学2年生が高校1年生の時点で全員適性試験を受け、それにより大まかに進路を決める必要が出てくる。高校生に進路決定させるためには、まず学校の受け入れ方針＝アドミッションポリシーを明確化しておくことが必要であり、来年度の入学案内にこのポリシーを示す。との説明があった。

具体的なポリシーの作成作業は各校副校長により構成される教務会により実施されており、白井副校長より、アドミッションポリシーを優先して具体的に策定している状況の詳細について報告があった。

④リアルジョブプロジェクト（RJP）の取組みに関する報告

白井副校長より2月13日テラカフェ披露、4月RJP単位認定のための学側変更申請、8～10月テラカフェで実施した各イベントの報告、その他各科でのテラカフェの概要活動報告があった。また、情報処理科井坂科長より㈱KDDI総合研究所と共同で行っている、小型ボード型コンピュータ（チリメン）の利用開発について報告があった。次いで松田科長よりゲームプログラミング科で実施しているジー・プラン㈱との共同によるiPhone用のゲームプログラム開発についての状況説明が行われた。

⑤卒業生調査に関する報告

卒業生へのアンケート調査結果について白井副校長より説明があった。

アンケートは昨年、5年前、9年前卒業した学生へのはがきによる依頼、ネットによる調査で行われた。（解答率は昨年50%、5,9年前25%）

- | | |
|----------|--|
| ①在学中の充実度 | 高評価：授業支援、資格取得支援、専門の授業
低評価：企業連携授業、基礎的学び直し、 |
| ②生活面の充実度 | 高評価：国内外の研修
低評価：企業連携、基礎学び直し |
| ③身についたこと | 高評価：マナー、仕事の優先順位を付ける力（段取り力）
低評価：企画力やアイデア等想像力、専門部分以外の高度知識 |

④熱心に取り組んだこと：専門の授業、知識習得、資格取得、友人との交流。

アンケート結果の重回帰分析を実施したところ、学生の満足度に繋がる項目は、

①知識を広げる授業、②長野研修等の学校行事、③授業以外での教員との交流
逆に満足度を下る方向に働いているのは、

①企業連携授業、②インターンシップ、③資格対策 という結果であった。

専門学校コンソーシアムに所属する他専門学校と比較したが、おおむね当校の満足度は高い。サンプル数が160前後であり、今後も毎年継続して調査していく予定である。

⑥海外研修等特別プログラムに関する報告

環境テクノロジー科今野科長より小笠原環境研修について、建築科野上科長より建築インテリア海外研修についてそれぞれの目的、実施状況ならびにその効果について説明が行われた。また学園全体で実施している英語研修を目的としたアメリカ研修（SISP）についての説明が白井副校長から行われた。

⑦研究倫理委員会に関する報告

バイオテクノロジー科大江科長より、ヒトに関する医学研究に関する倫理指針に基づき
学内研究倫理委員会設立に関する報告がなされた。

(4) 第四号議案：審議（取組みに関する意見交換）

議長は今回の7項目に関する説明、取組みについて各委員に意見を促し、また事務局からも同様な要請があった。以下に発言概要を示した。

安藤委員：就職率の数字はもういいのではないかと。内定9割は目標ではなく最低基準で今や問題ではない。どのような仕事についているのか？ アンケート内容は期待した調査と少しずれている。会社で活躍する人間が学校の看板となる。よって会社に入った後について掘り下げるべき。そうすると高校生も、他の入学希望者も「違う学校だな」というイメージを持つと思う。

渡辺委員：企業の立場からすると、学校としては企業連携を進めているが、アンケートの結果が伴っていないと感じる。どのへんにどう不満があるのかが知りたい。それによって教育の質も上がるのではないかと。

大塚委員：アドミッションポリシーは2年制を主体とし、4年制は建築監督科のみと思われるが4年制の学科はまた違ってくる。興味関心については様々な学科が混ざって評価されているので、ここは注意が必要かと思う。海外研修は刺激的で知識や新たな考え方を取り込みやすい。何を見させて何を考えさせるのか？目標をしっかりと持たせて、テーマ絞ってそのうえで学生自身に下準備をさせるのが良いと思う。

澤坂委員：学校全体としては特に気になることはない。情報処理科のペアプログラミンの話があったがこの方法の欠点もある。プルリクエストを利用すると良いと思う。
(井坂科長より、すでにやりはじめていますとのコメントがあった。)

立田委員：卒業生アンケートについてだが、学校の基本となる部分の評価が高いので、学校としては機能していると思われる。学生側の主体性が求められているものの評価が低いように感じられる。海外研修や留学などはそれに参加したかどうか問うた後に、それに満足したかというようにすると良いのではないかと思う。

濱委員(保護者)：画面や資料の表示についてもう少し字を大きくお願いしたい。
報告の完成度も高く、将来に対する学校としての戦略が明記されており良かった。

西村委員(保護者)：報告に関して特に問題はない。学園祭に来たが、自分自身を振り返ると学校に対する思い入れは無く出席も悪かったが、子供は遅刻欠席せずにきちんと通っている。
教員も頑張っていると感じられ、この学校に入れてよかったと思う。

奥山委員(保護者)：保護者の立場としてはこの学校でどのような物が得られるのか？何を学ばせてくれるのかをもっと発信してほしい。学校は楽しんでいるようだが、RJPの授業に関しては、色々な意見が出て、まとめることがなかなかできないと本人から聞いている。問題解決に関する手法、手順についてもう少し指導してもらえると良いかと思う。

樋口委員：昔に比べると学生が目的を持っていないように感じられてショックを受けている。

中山委員：学校の運営方針、システム、管理体制など仕組みとしては問題ないと思う。
逆にその仕組みが完成に近づくと、その仕組み自体にとらわれて動けなくなってしまう。
対応力は人間的なものによっている。仕組みによる判断できないこと、仕組みによって伝えられないことがある。そのようなことが無いようにしてほしい。あと学生に覇気がない、萎縮させないために鼓舞するがしすぎないことも必要。仕組みに安住すべきでない。

岸委員：学園祭などで学生の様子を見てみると、皆学校が好きだと感じる。具体的な社会参加を進めると、学生の成長が見えてよいと思う。近々区民活動センターができる。ぜひ学生の方の意見をいただき発展させたい。

あと研究倫理の話があったが、学生がのびのびと研究を進める中で、このような視点もしっかり浸透させるというのは大事である。非常に素晴らしいと思った。

川戸委員：学校のシステムは素晴らしい、この通り教育してもらえれば素晴らしい人材ができる。
考える力を付ける教育お願いしたい。平均的力にもう一つ「自慢できる力」を付けるようにしてほしい。あとモラル教育・道徳教育をぜひお願いしたい。
ここ数年わが社の新入社員を見ていてこの部分の認識が低い。ぜひお願いしたい。
募集については113%で満足しているように感じるが、もっと高くしないといけない。
対策をしっかりとることが必要と思う。

7 次回日程について(事務局)

- ・3月14日(火)午後 卒業研究製作およびRJPの発表会を予定している。

8. 閉式の辞(議長)

閉式にあたり、霜野議長より議論全体に対する評価、ならびに各委員の議事進行協力への感謝が述べられ、学校に対しこれからも成果の公開についてよろしくお願ひいたしたいとのコメントがあった。

以上

議事録署名人

印

印